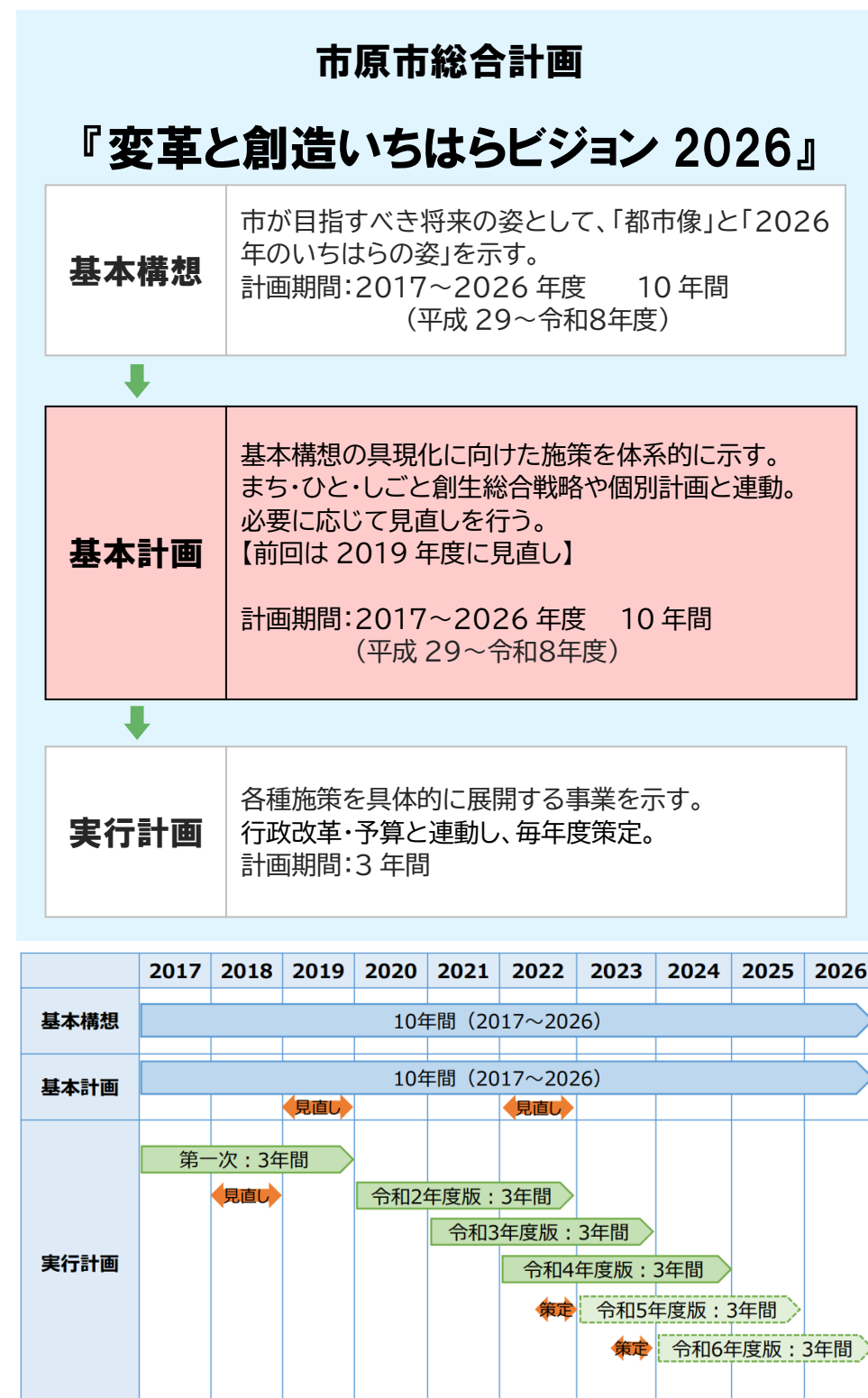


1 基本計画の位置づけと計画期間について

- ・市の最上位の計画である総合計画は、基本構想、基本計画、更に具体的な事業を示す実行計画の三層で構成され、本市のまちづくりの羅針盤となるもの。
- ・基本計画は、市の目指すべき将来の姿を示す基本構想を具現化するために、行政が取り組む施策を体系的に示す計画。



2 基本計画改訂に向けた考え方

(1)改訂の趣旨

総合計画に掲げる「都市像」及び「2026年のいちはらの姿」を実現するため、総合計画策定から5年間の成果と課題を検証するとともに、前回(2019年度)の基本計画改訂後の社会経済情勢の変化を捉え、基本計画を改訂し、2026年への「変革と創造」の道筋を明らかにする。

(2)改訂の視点

基本計画の改訂にあたっては、次の視点を持って検討し、施策及び指標の最適化を図る。

①基本計画の強化に向けた重点ポイント

都市像の実現にあたっては、これまで以上に施策間連携による相乗効果を発揮し、総合行政を推進することが必要であることから、以下の2点を重点ポイントとして、各種施策を点検し、強化を図るとともにさらなる連携を図る。

ア 市民が「住んでよかった」「住み続けたい」

イ 市外の人々が「訪れたい」「関わりたい」「移り住みたい」

②基本計画の最適化に向けた視点

次の視点を持って、前回の基本計画改訂の後に生じた、新たな課題・動きを的確に捉え、最適化を図る。

ア 社会経済情勢の変化への対応

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響や令和元年房総半島台風など激甚化・頻発化する災害への対応等を検証し、施策や指標の最適化を図る。

イ 国・県の動向への対応

- ・2050年カーボンニュートラルの実現、2023年に予定しているこども家庭庁の創設、自治体DXの推進等の国の動向及び千葉県の新たな総合計画を踏まえ、施策の最適化を図る。

ウ 市の個別計画等との整合

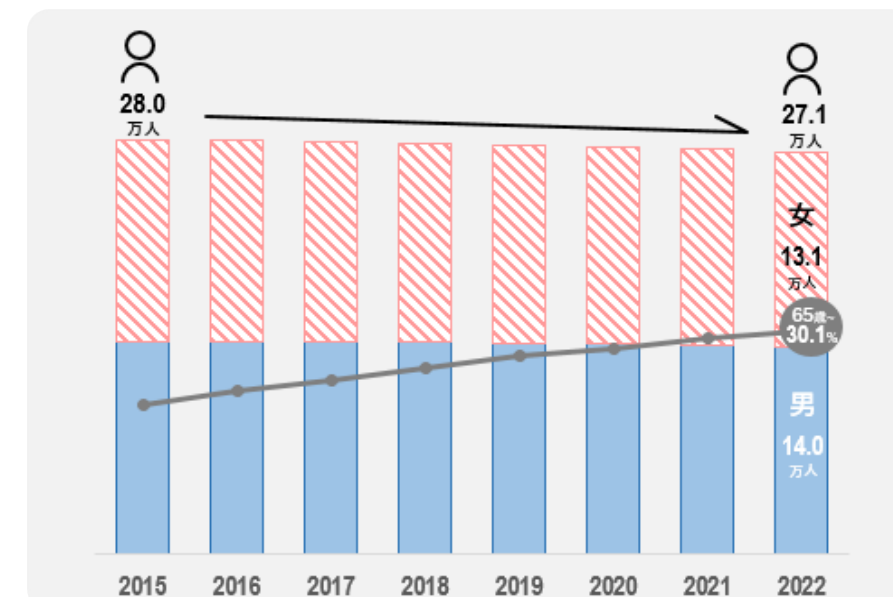
- ・前回の基本計画改訂後に策定・改訂した個別計画等及び今年度改訂予定の個別計画等を施策に適切に反映し、最適化を図る。

3 人口動向

(1)目標人口27万人について

ア 人口の推移

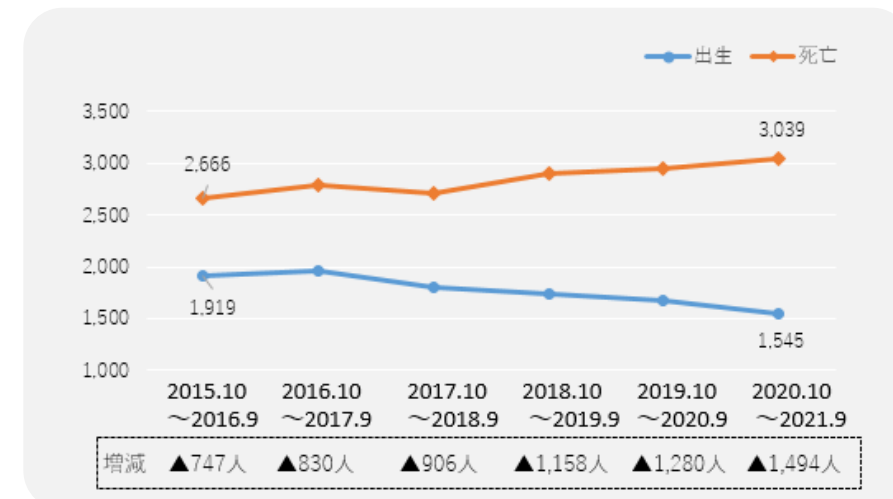
- ・2015年の約28万人から、2022年は約27.1万人まで減少している。
- ・一方で、65歳以上の高齢者の割合は30.1%まで増加し、高齢化が進行している。



住民基本台帳

イ 自然動態

- ・出生数は減少が続いており、一方で、死亡数は高齢化に伴い増加しているため、その差の拡大による人口の減少が進んでいる。
- ・出生数の減少は、合計特殊出生率、女性人口、婚姻件数の減少が主な要因である。



住民基本台帳

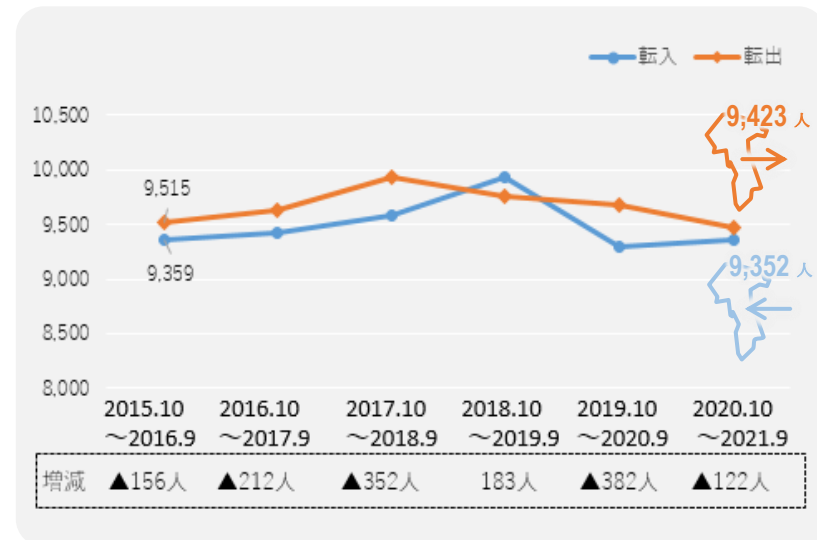
市原市総合計画【基本計画】の改訂について

企画部 総合計画推進課



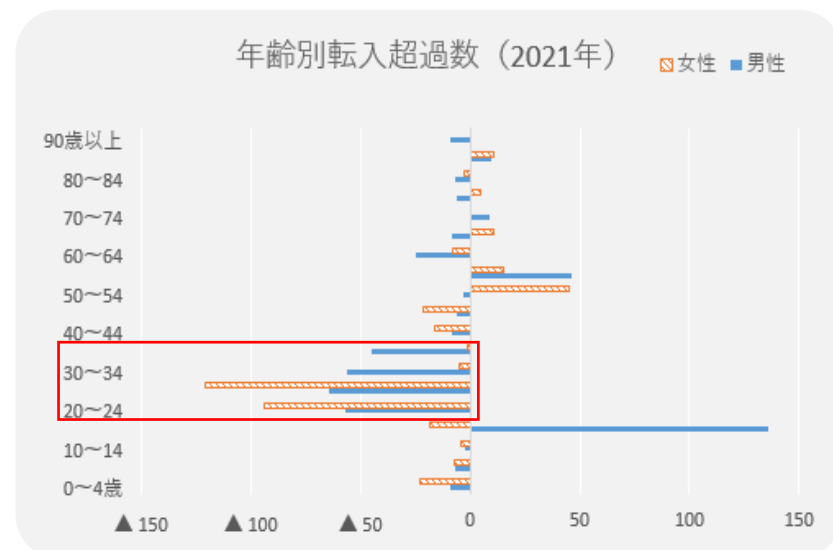
ウ 社会動態

- ・ 市外への転出が市内への転入を上回る転出超過が続いており、特に若者、女性を中心に市外への転出が多い。



住民基本台帳

- ・ 年齢別の転入出状況では、多くの年代で転出超過となっており、特に20代女性と20代～30代の男性の転出が多くなっている。



総務省統計局 住民基本台帳人口移動報告

エ 地区別人口の推移

- ・ 2015年と比較した場合、ちはら台地区のみが人口増となっている。(13.4%増)
- ・ その他の地区では人口が減少しており、特に南総地区、加茂地区では減少の割合が高くなっている。(南総地区：12.1%減。加茂地区：14.2%減)

a 人口動態

	2015年 (A)	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (B)	(B)-(A)	増減率
五井	87,766	87,616	87,489	87,150	87,135	86,919	86,923	▲ 843	▲1.0%
市原	52,652	52,150	52,055	51,686	51,473	51,285	50,963	▲ 1,689	▲3.2%
姉崎	29,897	29,740	29,588	29,348	29,065	28,881	28,622	▲ 1,275	▲4.3%
三和	14,909	14,636	14,460	14,223	13,965	13,658	13,461	▲ 1,448	▲9.7%
市津	13,827	13,882	13,930	13,885	13,898	13,824	13,764	▲ 63	▲0.5%
南総	24,249	23,709	23,124	22,715	22,246	21,729	21,319	▲ 2,930	▲12.1%
加茂	5,535	5,399	5,212	5,088	4,984	4,886	4,749	▲ 786	▲14.2%
辰巳台	12,017	12,079	11,916	11,705	11,607	11,393	11,177	▲ 840	▲7.0%
有秋	14,726	14,600	14,434	14,342	14,218	14,053	13,875	▲ 851	▲5.8%
ちはら台	24,452	25,316	25,877	26,685	27,261	27,562	27,721	3,269	13.4%
合計	280,030	279,127	278,085	276,827	275,852	274,190	272,574	▲ 7,456	

(各年 10 月 1 日時点の住民基本台帳登録者数)

b 自然動態(出生・死亡)

	2015.10～ 2016.9	2016.10～ 2017.9	2017.10～ 2018.9	2018.10～ 2019.9	2019.10～ 2020.9	2020.10～ 2021.9	2015.10～2021.9 合計
五井	52	▲ 13	▲ 32	▲ 62	▲ 174	▲ 238	▲ 467
市原	▲ 241	▲ 277	▲ 319	▲ 348	▲ 341	▲ 389	▲ 1,915
姉崎	▲ 104	▲ 133	▲ 134	▲ 145	▲ 175	▲ 154	▲ 845
三和	▲ 134	▲ 123	▲ 136	▲ 144	▲ 140	▲ 178	▲ 855
市津	▲ 117	▲ 107	▲ 113	▲ 138	▲ 115	▲ 133	▲ 723
南総	▲ 258	▲ 256	▲ 236	▲ 271	▲ 272	▲ 280	▲ 1,573
加茂	▲ 111	▲ 103	▲ 100	▲ 112	▲ 113	▲ 112	▲ 651
辰巳台	14	4	12	▲ 31	▲ 30	▲ 17	▲ 48
有秋	▲ 25	▲ 13	▲ 41	▲ 63	▲ 65	▲ 89	▲ 296
ちはら台	177	191	193	156	145	96	958
合計	▲747	▲830	▲906	▲1,158	▲1,280	▲1,494	▲6,415

(住民基本台帳)

C 社会動態(転入・転出、市内転居含む)

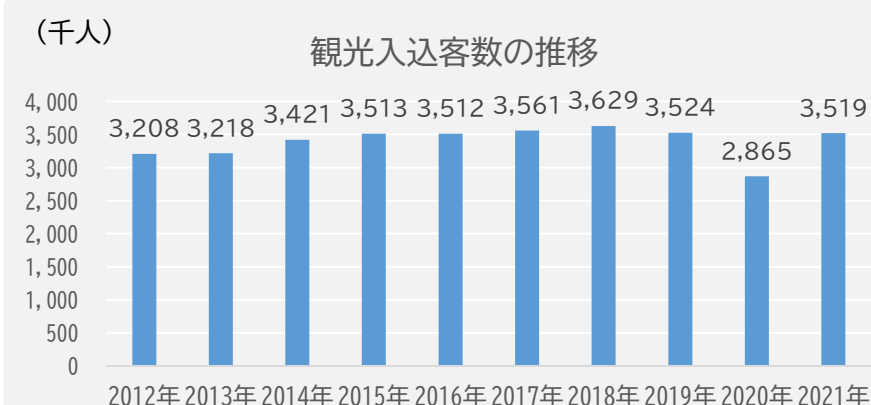
	2015.10～ 2016.9	2016.10～ 2017.9	2017.10～ 2018.9	2018.10～ 2019.9	2019.10～ 2020.9	2020.10～ 2021.9	2015.10～2021.9 合計
五井	▲ 202	▲ 114	▲ 307	47	▲ 42	242	▲ 376
市原	▲ 261	182	▲ 50	135	153	67	226
姉崎	▲ 53	▲ 19	▲ 106	▲ 138	▲ 9	▲ 105	▲ 430
三和	▲ 139	▲ 53	▲ 101	▲ 114	▲ 167	▲ 19	▲ 593
市津	172	155	68	151	41	73	660
南総	▲ 282	▲ 329	▲ 173	▲ 198	▲ 245	▲ 130	▲ 1,357
加茂	▲ 25	▲ 84	▲ 24	8	15	▲ 25	▲ 135
辰巳台	48	▲ 167	▲ 223	▲ 67	▲ 184	▲ 199	▲ 792
有秋	▲ 101	▲ 153	▲ 51	▲ 61	▲ 100	▲ 89	▲ 555
ちはら台	687	370	615	420	156	63	2,311
合計	▲156	▲212	▲352	183	▲382	▲122	▲1,041

(住民基本台帳)

(2) 交流人口500万人について

ア 交流人口（観光入込客数）の推移

- ・2017年、2018年と順調に増加していたが、2019年9月と10月に本市を襲った「令和元年房総半島台風」等の一連の災害による影響で減少に転じた。
- ・2020年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言（不要不急の外出自粛、店舗への休業要請等）、観光施設等の休業、上総いちほら国府祭り等行事の中止などの影響により大きく減少した。
- ・2021年は、コロナ禍でも楽しめるレジャーとして、ゴルフ客が増加したこと、アート×ミックス 2020+の開催などにより、観光客が増加し、回復傾向となっている。
- ・観光入込客数の上位は、「ゴルフ場」、「養老渓谷」、「上総更級公園」、「道の駅あずの里いちほら」、「千葉こどもの国キッズダム」の順となっている。



イ ゴルフ場利用者の推移

- ・ゴルフ場利用者数は、150～160万人で推移していたが、東日本大震災の影響により2011年に減少した。
- ・その後は、全国的にゴルフ人口が減少する一方で増加を続け、ピークの2017年には170万人となった。
- ・しかし、猛暑、降雪、台風等の災害、新型コロナウイルス感染症の拡大などの影響により、2020年には154万人まで減少した。
- ・2021年は、新型コロナウイルス感染症の影響下にあっても、屋外で「3密」を避けられるスポーツとして注目を集めたことや、マイクローリズムの流行などにより、利用者数は回復傾向となったと考えられる。

4 5年間の主な成果と今後の課題

総合計画策定から5年間の取組は、町会長連合会をはじめとした市民の皆様、市議会、企業など多くの皆様との対話と連携により、着実に成果をあげることができている。

1 産業経済・交流

《成果》

- ・企業立地奨励金による企業の競争力強化支援
- ・産業支援センター等と連携した中小企業への伴走型支援
- ・ICT×課題解決人材の育成と活躍の場づくり
- ・有害鳥獣による農作物被害の軽減
- ・農作物のブランド化の推進(梨の新品種登録)
- ・市原DMOを中心とした観光施策の推進

《挑戦中の取組》

- ・サーキュラーエコノミーの市原モデル構築
- ・新たな産業創造拠点の整備(産業支援センターのサンプラザ市原への移転・機能強化)

《課題》

- ・2050年カーボンニュートラルの実現と地域経済の両立
- ・コロナ禍や国際情勢の変化による地域経済への影響
- ・中小企業における事業承継
- ・起業・創業へとつながるビジネスコミュニティの形成
- ・耕作放棄地・荒廃農地の増加
- ・社会変化を踏まえた観光施策のあり方

2 コミュニティ・福祉・健康

《成果》

- ・町会との連携強化(災害時における防災行動マニュアル(水災害)ガイドライン作成など)
- ・市民活動団体への支援の充実(市原市ひときらめく市民活動補助金等)
- ・公民連携による市民活動拠点の創設(ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら)
- ・むし歯予防の取組(全小中学校での集団フッ化物洗口の実施)
- ・新型コロナウイルス感染症対策の着実な実施
- ・通いの場やフレイル予防など介護予防の取組推進
- ・地域共生社会実現に向けた取組(地区福祉総合相談センター9カ所設置)

《挑戦中の取組》

- ・就学前施設での集団フッ化物洗口の拡充
- ・地域共生社会の実現に向けた重層的な支援体制の整備

《課題》

- ・時代に即した地域コミュニティのあり方
- ・市民活動団体のあり方
- ・孤独・孤立対策
- ・ヤングケアラーへの対応
- ・必要な支援が届いていない人へのアウトリーチ支援

3 都市基盤整備・安心安全

《成果》

- ・拠点整備構想、拠点まちづくりビジョンの策定
- ・公民連携によるまちづくりの推進(リノベーションまちづくりなど)
- ・空家等対策の推進
- ・主要な道路の整備(八幡椎津線(姉崎地区)と青柳海保線の一体的供用開始など)
- ・災害対応の強化(地域防災計画及び業務継続計画の改訂、国土強靱化地域計画及び受援計画の策定、地区防災計画の策定、地域自主避難所制度の創設、防災マップの作成・全戸配布、防災行政無線のデジタル化)
- ・救急医療体制の充実(三次救急医療体制の整備)

《挑戦中の取組》

- ・拠点別整備基本計画の策定及び推進
- ・農地付き空き家の活用による移住促進
- ・八幡椎津線(平成通り)の早期全線開通
- ・(仮称)市原市汚泥再生処理センターの整備
- ・下水汚泥の固形燃料化施設整備
- ・消防団活動の推進(学生消防団)
- ・地域総ぐるみの交通安全対策の強化

《課題》

- ・既成市街地の低未利用地の解消
- ・各種愛護団体のあり方
- ・公営企業会計事業における経営基盤の強化
- ・災害時における要配慮者対策の強化
- ・地域公共交通の強化

4 子育て・教育・文化
《成果》 ・保育所等利用待機児童ゼロの実現 ・子育て支援サービスの充実(ネウボラセンターの設置、産後ケア、母子健康オンライン相談など) ・要保護児童保護施策の強化(相談員増員、地域主体の子どもの見守り強化など) ・小中学校における学習環境の整備(GIGAスクールの推進、非構造部材の耐震化、普通教室等へのエアコン整備、トイレの洋式化、学校施設のバリアフリー化等) ・地域資源を活かした取組(市原歴史博物館の整備、チバニアン在地層の環境整備、更級日記千年紀事業等) 《挑戦中の取組》 ・(仮称)いはら子ども未来館の整備 ・小中学校におけるタブレット端末の効果的活用 ・スクールソーシャルワーカーによる児童生徒の環境への働きかけ ・読書環境・図書館サービスの充実(電子書籍サービスの導入) 《課題》 ・子ども・若者の貧困対策の推進 ・子ども・若者の居場所づくり ・基礎学力の向上 ・地域資源を活用したまちづくり ・スポーツツーリズムの推進 ・ダイバーシティ&インクルージョンへの取組 ・国の子ども政策に合わせた施策展開(こども家庭庁の創設及び児童福祉法の改正等)

5 環境
《成果》 ・太陽光発電システム及び住宅用省エネルギー設備等の普及促進 ・市民や事業者等との協働による美化活動の推進 《挑戦中の取組》 ・新粗大ごみ処理施設の整備 ・再資源化の推進(分別品目の拡大等) ・ポリスチレンケミカルリサイクル実証の推進 《課題》 ・2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取組の強化 ・新焼却施設のあり方 ・ごみ減量・分別の取組強化

A 都市創生戦略
《成果》 ・拠点整備構想、拠点まちづくりビジョンの策定 ・公民連携によるまちづくりの推進(リノベーションまちづくり、牛久リ・デザインプロジェクト等) ・海保地区への物流系事業者の立地 《挑戦中の取組》 ・五井地区の公共施設の利活用促進(五井会館、サンプラザ市原、youホール) 《課題》 ・拠点別整備基本計画の策定及び推進

B 広域連携戦略
《成果》 ・近隣自治体、大学・企業など多様な主体との連携 《挑戦中の取組》 ・公民連携の取組(オープンイノベーションによる地域課題の解決等) ・千葉大学との連携によるいちじくの新たな栽培技術の確立・普及 《課題》 ・地域課題の解決に向けた190万圏域における連携強化

C 自治体経営戦略
《成果》 ・マイナンバーカードの普及促進 ・地域主体のまちづくりの対話の推進 ・地域おこし協力隊の活動支援 ・新たな改革の指針となる「市原市新行財政改革大綱」の策定 ・戦略的なシティプロモーションの実施 ・経営理念・組織ビジョン・行動指針の策定 ・デジタルトランスフォーメーションの推進(オンライン申請システム導入、子育て応援アプリ等) 《挑戦中の取組》 ・SDGs宣言制度、アワード制度の構築 ・職員の働きがいと働きやすさの追求 《課題》 ・地域おこし協力隊の持続的な活動に向けた支援 ・公共資産マネジメント推進計画の中間見直しによる老朽化した公共施設への対応 ・ワーク・ライフ・バランスの確立

5 指標の見直し(変更・追加)の考え方

基本計画に掲げる「2026年のいはらの姿」の実現に向け、施策の成果・効果を的確に検証し改革・改善を進めるため、指標の見直しを行う。

【指標見直しの考え方】

- (1)2026年の目標値をすでに達成している指標
- ・最新値が目標値を達成しているため、更なる施策推進を目指して、目標値を上方修正する。又は、他の指標に変更する。
- (2)基本計画策定時と状況が変化している指標
- ・指標の設定時と状況が変化しているため、指標の考え方や目標値を修正し、施策・事業の効果をより適切に測るために変更する。
- (3)現在の指標では施策の効果を適切に測定できない施策
- ・現在の指標では、施策・事業の効果を測り切れていないため、指標を追加・変更する。

6 今後のスケジュール

10月	・市長と町会長で語ろう未来創生ミーティング
11月上旬	・市原市総合計画審議会 ・いはら未来会議
11月下旬	・骨子案完成
12月上旬	・議会説明(骨子案) ・パブリックコメント(～1月上旬)
12月	・基本計画改訂に係る市民対話
1月	・素案作成
2月上旬	・素案完成
2月中旬	・議会説明(素案) ・市原市総合計画審議会(諮問)
3月	・市原市総合計画審議会(答申)
3月下旬	・市原市総合計画【基本計画2023改訂版】完成